

福祉会館の閉館とフロイデの多機能化について

1. これまでの主な動き

平成 29 年度	
5 月 1 日	「福祉会館の今後のあり方」について広報に掲載し意見聴取
6 月 28 日 ～7 月 24 日	「公共施設の今後のあり方に関するアンケート(1000 世帯)」を実施
8 月 1 日 ～8 月末	<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉会館の今後のあり方に関するアンケート(福祉会館利用団体向け:60 団体)」を実施 ・「福祉会館の今後のあり方に関するアンケート(福祉会館通年使用団体向け:18 団体)」を実施 ・「福祉会館の今後のあり方に関するアンケート(町会長向け:35 名)」を実施
11 月 6 日	経営会議にて方針決定
11 月 22 日	議会(全員協議会)へ方針決定をした旨を報告 ※ 以後、庁内会議および各種団体への意見聴取等を継続して実施
11 月 28 日	中日新聞に記事掲載
12 月 1 日	<p>ホームページに方針掲載（以下のとおり）</p> <p>「福祉会館の廃止に伴う国際観光センター・フロイデの多機能化」プロジェクトについて</p> <p>市では、将来に多額の費用が見込まれる公共施設の更新問題に対応していくため、公共施設の再配置を進めています。</p> <p>直近では、老朽化した福祉会館を平成 31 年度末で機能停止をすることを予定しており、同会館が担ってきた各種機能を他の施設へ移転することが必要となります。この機能移転の受け皿の中心となる施設としては、国際観光センター・フロイデが最有力候補と考えています。については、同施設を市民の様々な交流を促進し、市民が活躍することをサポートするための施設とし、多機能化することで対応していきたいと考えています。</p> <p>また、市内に点在する公共施設についても順次再生し、新たなフロイデを中心とした施設のネットワークを構築することで、さらなる有効活用を図ることを検討していきます。</p> <p>【プロジェクトの目的】</p> <p>(1)福祉会館は平成 32 年 3 月に機能停止(32 年 4 月以降に解体撤去、発掘調査を実施、最終的に犬山城の便益施設(地域の集会場を含むもの)として整備)</p> <p>※ 便益施設の規模、内容の確定までには、発掘調査の結果、史跡の保存活用計画の策定、文化庁との調整など、かなりの時間を必要とすると考えられます。</p> <p>(2)国際観光センター・フロイデ → (仮称)市民交流センター・フロイデ</p> <p>平成 31 年度中に機能移転に必要な改修工事を実施、翌年度から新たな施設としてスタートします。</p>

	<p>※ 新たな用途:市民交流、国際交流など市民が集い、様々な活動を通じて活躍するための施設とします。</p> <p>(3)地域の既存施設(公民館、学習等供用施設、老人憩の家など)の用途変更 フロイデを市民交流の中心施設とすることで、上記既存施設も同じ目的を持った地域施設として位置付けます。</p> <p>※ 順次、実施していきます。</p>
2月15日 から随時	「フロイデの今後のあり方」について広報に掲載し意見聴取
平成 30 年度	
4月(前年度より 継続的に実施)	庁内会議および各種団体への意見聴取等を継続して実施
4月20日 ～5月18日	フロイデの多機能化に関するアンケート(1200世帯)を実施

2. 今後の主な予定

※ 事業進捗状況により変更となる場合があります。

平成 30 年度	
～9月末	フロイデ改修基本設計(レイアウト決定、概算事業費算出、改修工事工期の検討など)を実施
10月～3月末	フロイデ改修実施設計(工事発注用の図面・設計書の作成など)を実施
平成 31 年度	
～2月末	フロイデ改修工事(一時休館必要)を実施
～3月末	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体移転などを実施 ・福社会館の閉館
平成 32 年度	
4月	フロイデのリニューアルオープン

3. Q&A(本事業に関するよくある質問と回答)

※ すでにお知らせ済みの内容ですが、改めて Q & A 方式で分かりやすくお伝えします。

Q1. なぜ、福祉会館を閉館し、フロイデを多機能化するのでしょうか？

A1. 全国の自治体では、将来にわたって十分な歳入増が見込めない中で、社会保障費がさらに増大していくことを予測しています。こうした状況に対応していくための方策の一つとして、公共施設の量を減らし、社会保障費に充てる予算を確保しようとしています。いわゆる公共施設再配置事業です。本市の福祉会館やフロイデについてもこうした事業の一環として取り組んでいるものです。

具体的には、福祉会館は、築50年近くが経過し、屋根・外壁・内装などはもちろん、空調や電気設備の老朽化が著しいこと、城下町の景観を阻害していること、観光客の増加により休日には利用しづらくなったこと、現在の機能の多くが必ずしもこの場所でもなくても良いことなどから、平成32年3月末で機能を停止することを決定しました。同会館で担ってきた各種機能については、他の施設へ移転することが必要となりますが、この機能移転の受け皿の中心となる施設をフロイデとし、同施設を市民の様々な交流を促進し、市民が活躍することをサポートするための施設とし、多機能化することで対応していきたいと考えています。

Q2. 福祉会館及びフロイデの今後の動き(スケジュール)はどうなるのでしょうか？

A2. 福祉会館は、平成32年3月末で閉館する予定です。そのため、貸館機能、社会福祉協議会の機能などは、フロイデや他の公共施設へ機能を移転させます。(併設する中央児童館は機能移転、長寿館は廃止)

一方、フロイデは平成32年4月に「(仮称)市民交流センター」として供用開始(目標)する予定です。平成30年度に機能移転内容の決定、改修設計を完了させ、平成31年度に改修工事(一時休館必要)、移転作業等をする予定です。

Q3. フロイデで各団体の活動スペースを十分に確保できるのでしょうか？

A3. フロイデを国際観光センターから「(仮称)市民交流センター」へと施設の目的を変更することで、市民の皆さんの様々な活動を支援する施設として、より稼働率を高めたいと考えています。福祉会館を閉館するため、利用できる全体面積は減りますので、各種団体の皆さんの活動は、スペースを共有し効率よく使っていただくこととなります。できるだけ使い勝手の良い機能(ロッカー、印刷機、コピー機の配置など)、打ち合わせ等に自由に利用できるスペースを準備していきたいと考えています。

Q4. フロイデの施設使用料の減免制度はないと聞いていますがいかがでしょうか？

A4. 全国の多くの自治体が、公平性(施設を利用する人と利用しない人のバランス)の観点から施設利用者(受益者)には一定の負担を求めていく方針を打ち出しています。また、今年度実施したフロイデに関するアンケート(1200 世帯)でも「減免制度の適用については、全体の75%の人が不要」と回答しています。

こうした状況からも、施設利用者には一定のご負担をお願いすべきと考えています。なお、実際にご負担いただく使用料については、現在改めて基準を明確にした上で算定しているところです。適正価格を見極めた上での話にはなりますが、現在よりも値下げできるかもしれません。ご理解とご協力をいただきたいと思います。

Q5. 団体としての意見や提案がある場合はどうすればよいでしょうか？

A5. 上記 Q&A のとおり、全体としてスペースが制限されることや使用料をご負担いただくことなど、本事業の基本的な方針に関わる事項等は変更できません。その他、運用面でのご提案等については、貴団体を所管する市の担当課にご相談ください。なお、フロイデ改修に関わるご提案等の期限につきましては、全体のスケジュールもありますので、平成 30 年 7 月末を予定させていただきます。

4. フロイデのリニューアル案(平成 30 年 6 月 27 日時点)

現時点での「フロイデのリニューアル案」を別紙のとおり示します。

各種団体へのヒアリング等を参考に計画したもので、主な改修内容を示しています。

以上